

【第1号議案】令和5（2023）年度 事業報告案

1. 概況

1. 展示事業

(1) 利用状況

2023年度（令和5年度）は3本の企画展示「金子孝信 ～絵に託した熱き思い～」、「一伝え続けた想い— 新井満回顧展」、「諸橋轍次と『大漢和辞典』ダイジェスト版」を開催し、3,575名（うち有料2,367名）【R4=2,287名（うち有料1,301名）】の来館者を迎えました。開館日は239日間。休館日は月曜日（祝休日を除く）、展示替え期間、年末年始、2024（令和6）年3月4日から31日までの春季休館を含む127日間でした。

(2) 常設展示事業

2023（令和5）年度の文化功労者に認定された、元文化庁長官で金工作家の宮田亮平氏（佐渡市）のイラスト、ネームプレート、受章者パネルを作成して展示しました。

(3) 企画展示事業

3本の企画展示に加えて、2023年10月3日から11月5日の会期で、新潟日報社所蔵の坂口安吾直筆手紙を展示しました。

① 「金子孝信 ～絵に託した熱き思い～」

2023（令和5）年4月12日（水）～7月9日（日） 77日間

入館者数 1,218名（うち有料851名）

② 「一伝え続けた想い— 新井満回顧展」

2023（令和5）年8月1日（火）～11月5日（日） 84日間

入館者数 1,371名（うち有料756名）

併催「坂口安吾と新潟日報」

2023（令和5）年10月3日（火）～11月5日（日） 30日間

③ 「諸橋轍次と『大漢和辞典』ダイジェスト版」、併催ミニ展示「辞典を編さんした新潟人」

2023（令和5）年11月28日（火）～2024（令和6）年3月3日（日） 78日間

入館者数 986名（うち有料760名）

これら企画展示で12名の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。（詳細は4ページから8ページまで）

2. ネットワーク協議会事業

(1) 第7回にいがた文化ネットワーク協議会

協議会での情報交換をスムーズにするため、開催案内とともに事前アンケートを送付しました。

第7回協議会は3月4日に開催。参加団体は7団体でした。事前に実施したアンケートの回答内容をもとに、それぞれの施設・団体が、地震対策やデジタルアーカイブなどについて情報交換を行いました。

(2) 出張展示支援

① 「金子孝信展 ～絵に託した熱き思い～」

メディアシップ近隣にある蒲原神社に生まれた戦没画家・金子孝信の作品を展示しました。新潟市潟東樋口記念美術館で約10年に亘り特別展を開催していた元館長の中島榮一氏に監修をお願いして、作

品とその人生を紹介しました。新潟市西蒲区の新潟市潟東樋口記念美術館の一区画で常設展示されていますが、アクセスの不便さから見に行くことが難しいとの声があり、孝信の小学校区にある当館で開催することとなりました。関連イベントとして生前の金子孝信を知る甥の金子隆弘氏、監修の中島榮一氏、新潟市美術館で金子孝信を初めて紹介した大倉宏氏（美術評論家、元新潟市美術館学芸員）に金子孝信の人となりと作品について語っていただきました。

②「一伝え続けた想い― 新井満回顧展」

「千の風になって」の訳者として広く知られている、新潟市中央区生まれの新井満氏を資料とともに紹介しました。実家が旧礎小学校前の文房具店だったためか礎小学校卒業生や、「千の風音楽祭」に参加者の来館が多く見られました。

③「諸橋轍次と『大漢和辞典』ダイジェスト版」

生誕 140 年を記念して開催。諸橋轍次と『大漢和辞典』を知ってもらうために、資料や写真パネル等を展示しました。また、諸橋轍次記念館の生誕 140 周年事業とも連携して、当館から諸橋轍次記念館へ足を運ぶことを勧めました。

(3) 館報の発行

館報「にいがた文化」は、新潟県博物館協会（事務局：北方文化博物館）に加盟していない小さな顕彰館や顕彰団体の事業や活動情報も掲載しています。県博物館協会の「県博協ニュース」（毎年 4 月発行）は、協会加盟館の情報のみ。それを補完する役割を担っています。

(4) 県内 51 文化施設・団体アンケート（R4 年度パイロット事業） ※別紙参照

R4 年度から続いて、県内の文化施設や団体へのアンケート調査を実施した。その回答内容をもとに、第 7 回ににいがた文化ネットワーク協議会を開催し、地震対策、デジタル化について意見交換会をしました。

3. 教育普及事業

企画展示関連事業として、担当学芸員等による解説会を 9 回開催しました。うち 1 回は監修者による解説会を行いました。外部講師による講演会は、5 月に金子孝信の甥であり蒲原神社宮司の金子隆弘氏、金子孝信展監修者の中島榮一氏（元新潟市潟東樋口記念美術館館長）、金子孝信作品を調査し企画展で紹介した大倉宏氏（美術評論家、元新潟市美術館学芸員）による鼎談を、9 月には、当財団元理事の竹石松次氏の進行で、ゲストに新井満氏夫人の新井紀子氏、友人の川上耕氏、連載の担当者であった佐藤和正氏（フリージャーナリスト）を迎えたトークイベントを、2 月に高岡信也事務局長による講演会を開催しました。

令和 5 年度の企画展示関連イベント参加者総数は 388 名（前年度 212 名、前年比 183%）。内訳は作品解説会が 135 名（前年度 53 名、前年比 254%）、外部講師による講演会は 253 名（前年度 159 名、前年比 159.1%）でした。小中学校または高校などによる団体観覧（総合学習含む）は 19 校・団体のべ 184 名（前年度 13 校・団体、207 名、前年比 6 校増、対前年度比 88.8%）の来館がありました。

館外活動では、学芸員による新潟日報への寄稿が 1 本。講演会は学芸員による講座等が 2 回、のべ 37 名（前年度 212 名、前年比 17.4%）の参加がありました。また令和 4 年度の企画展示「『有恒学舎創設』 増村朴斎―教育への思い―」の解説パネル等をゑしんの里記念館へ貸出しました。それに際して学芸員が展示、講師として登壇しました。

4. 調査及び研究・研修事業

新潟市歴史博物館との共同調査（山田花作、阿部稲城ほか）を行いました。また、当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加しました。

5. 収集・保存、資料貸出

（県出身またはゆかりの文化人に関する資料の寄贈受入はなし）

6. 広報

平成 27 年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビの 3 団体から助成または共催をいただき、企画展示の規模に合わせて広報しました。昨年度同様、SNS（Facebook や X [旧ツイッター]）での情報発信を強化して、オンライン上でも各施設や団体との連携を図っています。

2. 事業別報告

1. 展示事業

(1) 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業 参加者総数
239 日／366 日間	127 日／366 日間	3, 575 名	2, 367 名	388 名 (担当学芸員による解説会 および企画展示関連事業)

※2022（令和 4）年度実績：開館日 232 日間 入館者総数 2,287 名（うち有料 1,301 名）、普及事業参加者総数 212 名

(2) 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
1	全体テーマ「はじめまして、にいがたの文化人」（個人紹介パネルの人物を「にいがた偉人かるた」とともに紹介） ※「 」はかるたを展示した文化人 ① 受章者 「良寛」 ② 医学 「司馬凌海」、「長谷川泰」、「石黒忠憲」、「池田謙斎」、「入澤達吉」、「荻野久作」、「平澤興」 ③ 新潟の女性 「杉本鉞子」、「久保田きぬ子」 ④ 美術 「小林古径」、「土田麦僊」、「岩田正巳」、「蒔谷虹児」 ⑤ 文学 「會津八一」、「小川未明」、「相馬御風」、「堀口大學」、「西脇順三郎」、「坂口安吾」、「山岡荘八」、「宮柊二」	4/12(水)～ 7/9(日)	77	
2	第 1 クールと同じ	8/1(火)～ 11/5(日)	84	
3	併催ミニ展示「辞典を編さんした新潟人」*1 ① 受章者 「ドナルド・キーン」 ② 中国学 「倉石武四郎」 ③ 医学 「司馬凌海」 ④ 美術 「蒔谷虹児」 ⑤ 文学 「相馬御風」	11/28(火)～ 6/3/3(日)	78	* 1. 企画展示 「諸橋轍次と『大漢和辞典』ダイジェスト版」の併催ミニ展示として企画

通 年	文化勲章（10名）	4/12（水）～ 6/3/3（日）	239	*1. 令和5年度文化功労者に元文化庁長官の宮田亮平氏（佐渡生）が認定されたため、1名増
	文化功労者（18名）*1			
	人間国宝（5名）			

(3) 企画展示

①「金子孝信 ～絵に託した熱き思い～」

会 期	2023（令和5）年4月12日（水）～7月9日（日） 77日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	蒲原神社、新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館
趣 旨	<p>新潟市の蒲原神社で神官の三男に生まれた金子孝信（1915～42年）は、画家を志し東京美術学校（東京藝術大学の前身）日本画科に学び、1940年、首席で卒業した。ほどなく応召し、26歳の若さで、中国大陸で戦死した。</p> <p>遺族が大切に保管していた作品は一時期、戦没画学生の作品を集めた「無言館」（長野県上田市）で常設展示されていたが、のちに蒲原神社の遺族のもとへ。その後、新潟市西蒲区の潟東樋口記念美術館に寄託され、約20年前からコーナーが設けられている。</p> <p>金子孝信の作品は、色彩の明るさ、細密な描写、意識的に強調された遠景と近景など、伝統的な日本画とは異なるモダンな画風が特徴。今回、志半ばで夢を断たれた金子孝信の想いを貴重な作品や資料で展覧した。</p> <p>本展では、長年、新潟市潟東樋口記念美術館で金子孝信展を開催していた元職員の中島榮一氏と宮沢淳子氏に携わっていただき、金子孝信を紹介した。</p>
紹介文化人	金子孝信（新潟市）
協力団体及び個人	蒲原神社、新潟市潟東樋口記念美術館・新潟市潟東歴史民俗資料館、中島榮一氏、宮沢淳子氏、金子隆弘氏、大倉宏氏、竹石松次氏
展 示	<p>金子孝信の生家である蒲原神社および作品の寄贈先である新潟市潟東樋口記念美術館が所蔵する作品と資料を借用して、画家を目指して夭逝した金子孝信について紹介した。あわせて関連事業では、金子孝信作品を守り続けた遺族や孝信を発見し紹介し続けた美術関係者に鼎談をしてもらうなど、金子孝信を知ってもらうための催しを開催した。</p> <p>併設として、元理事・竹石松次氏の叔父にあたる竹石三男氏が戦時中の記録として残した手記及び写真、竹石松次氏により書籍化された本を紹介した。金子孝信の戦地でのスケッチとともに戦地での状況をより理解できる展示にした。</p>
関連事業	<p>① 鼎談「金子孝信 ～絵に託した熱き思い～」 参加者数：80名 開催日：5月13日（土） 会場：新潟日報メディアシップ2階日報ホール 登壇：金子隆弘氏金子隆弘氏（金子孝信の甥、蒲原神社宮司）、中島榮一氏（本展監修者、前新潟市潟東樋口記念美術館館長）、大倉宏氏（美術評論家、砂丘館館長）進行：石垣雅美</p> <p>② 担当学芸員による解説会 全3回（第1～2回は学芸員、第3回目は監修者が担当） 開催日：4月22日〔土〕、5月27日〔土〕、6月24日〔土〕 参加者総数：72名 会場：当館 担当：石垣 雅美（4月と5月）、中島榮一氏（6月）</p>
広 報	<p>①チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>②新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス（23回掲載）</p> <p>③ラジオCM：BSNラジオ</p> <p>④ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム（ミュージアムポータルサイト）</p> <p>⑤雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p>
掲載記事	5月1日（月） NIPPO TAKE A WALK 2023年5月号 2面 みんなの掲示板（企画展示案内）

または番組	<p>5月6日(土) 新潟日報おとなプラス 6面 まちの掲示板 (イベント案内)</p> <p>5月9日(火) 新潟日報 19面 文化「新潟市出身戦没画家 金子孝信しのぶ鼎談」(イベント案内)</p> <p>5月14日(日) 新潟日報 17面 「早世の画家に思いはせ 新潟 金子孝信作品 魅力を紹介」(鼎談の取材記事)</p> <p>5月19日(金) 新潟日報おとなプラス 8面 メディアシップウィークリー (企画展示案内)</p> <p>5月25日(木) 新潟日報おとなプラス 8面 読者のひろば「金子孝信の絵 鑑賞でき満足」</p> <p>5月26日(金) 新潟日報おとなプラス 8面 メディアシップウィークリー (企画展示案内)</p> <p>6月1日(月) NIPPO TAKE A WALK 2023年6月号 2面 みんなの掲示板 (企画展示案内)</p> <p>6月16日(金) 新潟日報おとなプラス 8面 メディアシップウィークリー (企画展示案内)</p> <p>6月23日(金) 新潟日報おとなプラス 8面 メディアシップウィークリー (企画展示案内)</p> <p>6月30日(金) 新潟日報おとなプラス 8面 メディアシップウィークリー (企画展示案内)</p> <p>7月7日(金) 新潟日報おとなプラス 8面 メディアシップウィークリー (企画展示案内)</p>
入館者数	1,218人(うち有料851人) ※5年度予算案作成時の目標人数=1,200人(達成率=101.5%)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟市潟東樋口記念美術館の職員時代に熱心に金子孝信作品の調査をされていた中島榮一元館長と宮沢淳子元職員に監修をお願いしたことで、金子孝信を深く知るための企画立案が出来た。 ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ侵攻などを報道で目にする機会が多いためか、戦没画家・金子孝信の企画展示を開催して、古くからのファンだけでなく、初めて金子孝信を知ったという若い世代の来館もあった。 関連イベントの鼎談では、金子孝信の甥である蒲原神社の金子隆弘宮司、40年ほど前に新潟市美術館の企画展で金子孝信作品を展示した大倉宏氏(美術評論家、元新潟市美術館学芸員)、約20年前から金子孝信の企画展を開催している新潟市潟東樋口記念美術館の中島榮一元館長から、金子孝信の人となりや思い出、作品について語ってもらった。生前を知る身内や美術評論家らによる作品解説は参加者から好評であった。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 金子孝信の生家が蒲原神社であったことから、蒲原まつりなどでのPRをと検討していたが、PRまでは出来なかった。 他社と関連イベントで協力できないかと考えたが、マンパワー不足で叶わなかった。これをきっかけに他社との協同について検討してみたい。
担当	石垣 雅美

②「一伝え続けた想い― 新井満回顧展」

会期	2023(令和5)年8月1日(火)～11月5日(日) 84日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日报社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	新井紀子氏、七飯町(北海道)、BSN新潟放送
趣旨	<p>大ヒット曲「千の風になって」の翻訳、作曲で知られる新井満(1946～2021年、新潟市)。青年期に重病を患い生死を彷徨った体験から、生きる喜びを実感。以降、美しいものを発見し伝えることをライフワークとして生きたいと誓った。</p> <p>大学卒業後に入社した広告会社で環境映像制作に携わりながら、歌手や作詞作曲、執筆(のちに芥川賞受賞)など多様な分野で活躍した。2008(平成20)年に『良寛さんの愛語』を発刊。この頃から新潟市「千の風のふるさと・新潟市」にも関わった。</p> <p>様々やジャンルで活躍した新井満が生涯伝え続けた想いとは。本展では、長く公私にわたり親交が深かった竹石松次氏(元理事、BSNメディアホールディングス特別顧問)に携わっていただき、新井満を関連資料とともに紹介した。</p>
紹介文化人	新井満(新潟市)、坂口安吾(新潟市)
協力団体及び個人	新井紀子氏、七飯町(北海道)、BSN新潟放送、竹石松次氏
展示	ご遺族や新井満が晩年を過ごした七飯町(北海道)が所蔵する資料を中心に展示してマルチ

	フェイス（本人談）として八面六臂の活躍をした新井満について紹介した。あわせて関連事業では、竹石松次氏の進行により「千の風になって」が生まれるまでの秘話を関係者に話してもらおうトークイベントを開催した
関連事業	<p>① トークイベント「千の風の誕生秘話」 参加者数：111名 開催日：9月29日〔金〕 会場：新潟日報メディアシップ2階日報ホール 登壇：新井紀子氏（新井満氏夫人）、川上耕氏（新井満氏友人、弁護士）、佐藤和正氏（フリージャーナリスト） 進行：竹石松次氏（BSNメディアホールディングス特別顧問）</p> <p>② 担当学芸員による解説会 全3回（3回ともほぼ同じ内容） 参加者総数：19名 開催日：8月26日（土）、9月23日（土・祝）、10月28日（土） 会場：当館 担当：石垣雅美</p>
広報	<p>① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス（26回掲載）</p> <p>③ テレビCM：BSNテレビ</p> <p>④ ラジオCM：BSNラジオ</p> <p>⑤ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語</p> <p>⑥ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p>
掲載記事 または番組	<p>7月21日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>7月28日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>8月4日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>8月25日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>9月1日（金） NIPPO TAKE A WALK 2023年9月号 2面 みんなの掲示板（企画展示の案内）</p> <p>9月1日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>9月9日（土） 新潟日報17面 文化「美しさ伝える使命 感じて 故新井満さん回顧展 にいがた文化の記憶館」（企画展示の取材記事）</p> <p>9月14日（木） 新潟日報 assh5面 特集タイアップ「親子での来館がお得！『親子ふれあいデー』に出かけよう」（親子ふれあいデー実施館の紹介）</p> <p>9月22日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>9月29日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>10月1日（日） NIPPO TAKE A WALK 2023年10月号 2面 みんなの掲示板（企画展示の案内）</p> <p>10月6日（金） 新潟日報21面 文化「『千の風』誕生秘話 切々と」（イベント取材記事）</p> <p>10月6日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p> <p>10月14日（土） 朝日新聞 地域面「作家・新井満さんが残した名曲 誕生のきっかけ 妻を亡くした友人へ寄り添い書き上げた」（イベント取材記事）</p> <p>10月27日（金） 新潟日報おとなプラス8面 メディアシップ ウィークリー（企画展示の案内）</p>
入館者数	1,371名（うち有料756名） ※5年度予算案作成時の目標人数=2,000人（達成率=68.6%）
総括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新井紀子夫人と北海道七飯町役場からご協力いただき、新井満氏の遺品や著作などを展示して、多彩な活動をした新井満の生涯と業績を紹介できた。企画では、生前の新井満氏と公私にわたり親しかった竹石松次氏からご協力いただいたことで、身近な人だけが知っていた新井満氏の一面を紹介できた。 ・本展には新井満氏の友人や、生家の文具店を利用していた旧礎小学校卒業生、千の風音楽祭の参加者らが来館し、受付で思い出話を話して帰ることが複数回あった。また楽曲「千の風になって」に思い出がある方の来館もあった。 ・関連イベントでは、竹石松次氏の進行で、新井紀子夫人や友人の川上耕氏、公私にわたり交流のあったフリージャーナリストの佐藤和正氏によるトークイベントを開催した。 <p>■ 検討課題</p>

	・数年前から少しずつ準備を始めたものの、新井満氏の業績などの調査に時間がかかり関係者に負担をかけてしまった。他業務とのタスク管理をして、取り組みたい。
担 当	石垣 雅美、高岡 信也

③「生誕 140 年記念 諸橋轍次と『大漢和辞典』ダイジェスト版」

会 期	2023 (令和 5) 年 11 月 28 日 (火) ~ 2024 (令和 6) 年 3 月 3 日 (日) 78 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	諸橋轍次記念館、新潟県立図書館
趣 旨	旧下田村 (現三条市) 出身の諸橋轍次は、2023 年に生誕 140 年を迎えた。当館では過去に、歳月をかけて独力で大事業を成し遂げた 4 人の文化人を紹介する「越後人のねばり」展で諸橋轍次を紹介したが、紹介スペースには限りがあった。そこで生誕 140 年を記念して改めて諸橋轍次を単独で取り上げ、世界最大の漢和辞典『大漢和辞典』を著した業績をダイジェストで紹介した。 また、「併催ミニ展示」として、各種辞典編さんに関わった以下の新潟人たちも取り上げた。 ①『和訳独逸辞典』の司馬凌海 (佐渡市)、②『広辞苑』の前身『辞苑』を出版した博文館の大橋新太郎 (長岡市)、③『大日本地名辞書』の吉田東伍 (阿賀野市)、④『詳解漢和大字典』『新修漢和大字典』の小柳司氣太 (新潟市)、⑤『岩波中国語辞典』の倉石武四郎 (上越市)、⑥『米英俗語辞典』『会話作文英語表現辞典』『日英故事ことわざ辞典』のドナルド・キーン (柏崎市ゆかり)
紹介文化人	諸橋轍次 (三条市)、司馬凌海 (佐渡市)、吉田東伍 (阿賀野市)、大橋新太郎 (長岡市)、小柳司氣太 (新潟市)、相馬御風 (糸魚川市)、倉石武四郎 (上越市)、ドナルド・キーン (柏崎市ゆかり)
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展 示	諸橋轍次記念館 (三条市) から、『大漢和辞典』の編さんに関わる資料を借用し、展示した。また関連図書閲覧コーナーを設け、『大漢和辞典』縮写版 (全 13 巻)、諸橋轍次著作集 (全 10 巻) をはじめとする著作や諸橋轍次の伝記などを設置した。あわせて「併催ミニ展示」では、辞典編さんに関わった新潟の文化人を紹介した。
関連事業	① 講演会「音読み訓読み—漢字から生まれた第 3 の文字」 参加者数：62 名 開催日：2 月 25 日 (日) 会場：新潟日報メディアシップ 6 階ナレッジルーム 講師：高岡信也事務局長 ② 担当学芸員による解説会 全 3 回 (3 回とも同じ内容) 参加者総数：44 名 開催日：12 月 23 日 (土)、1 月 27 日 (土)、2 月 24 日 (土) 会場：当館 担当：伊豆名皓美
広 報	① チラシ (A4、両面カラー、割引券付) 10,000 部、ポスター (B2、片面カラー) 400 部 (県内顕彰施設や図書館などに発送) ② 新聞広告：新潟日報および新潟日報おとなプラス (33 回掲載) ③ テレビ CM：NST 新潟総合テレビ ④ ラジオ CM：BSN ラジオ ⑤ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム ⑥ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」(イベント情報)、「カルチャーにいがた」
掲載記事または番組	12 月 1 日 (金) NIPPO TAKE A WALK 2023 年 12 月号 みんなの掲示板 12 月 1 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 (企画展示案内) 12 月 15 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 (企画展示案内) 12 月 16 日 (土) 朝日新聞朝刊 26 面 ガイド ギャラリー (企画展示の案内) 12 月 22 日 (金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会 (企画展示案内) 12 月 27 日 (水) 新潟日報おとなプラス 1~3 面 特集「諸橋轍次 漢字文化伝え」 (執筆者：ライター・河上進氏) 1 月 1 日 (月) NIPPO TAKE A WALK 2024 年 1 月号 みんなの掲示板 1 月 30 日 (火) 新潟日報朝刊 19 面 展覧会へようこそ「前例のない壮大な仕事」

	2月1日(木) NIPPO TAKE A WALK 2024年2月号 みんなの掲示板 2月2日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会(企画展示案内) 2月26日(金) 新潟日報おとなプラス メディアシップウィークリー展覧会(企画展示案内)
入館者数	986人(うち有料760人) ※5年度予算案作成時の目標人数=700人(達成率=140.8%)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	○ 評価点 ・[入館者増] 本展の開催が、新潟日報朝刊1面で漢字を紹介する題字脇連載「行不由徑(ゆくにこみちによらず)」が終了して約半年後ということもあってか、諸橋に関心を持つ人が多く、過去の同時期の企画展の来場者数を参考に設定した目標来場者数を上回ることができた。 ・[顕彰館との連携] 諸橋轍次記念館で、諸橋の故郷・三条市下田の風土に触れながら諸橋について詳しく知ってほしい、と呼びかけた。来館者から、春になったら顕彰館にも足を運んでみたいという声もあった。 ・[顕彰館との連携] 諸橋轍次記念館が、記念館主催の書き初め大会の受賞者に当館の入場券を贈呈するなど、本展の開催に協力的だった。改めて顕彰館との協力体制を築くことができた。 ・[刊行物販売] 新潟日報朝刊題字脇連載が書籍化された『行不由徑(ゆくにこみちによらず)』(2023年12月、諸橋轍次記念館編、新潟日報メディアネット)を委託販売した。販売実績は17冊。 ・[企画展関連図の販売] 本展に合わせて作成した「諸橋轍次を中心とした人物関連図」を販売した(A3カラー、1枚100円)。販売実績は14枚。 ■ 検討課題 ・[関連イベントについて] 漢字は注目度が高いテーマで申し込みの集まりが良く、81名の参加申し込みがあったが、当日参加者は62名(約76%)だった。参加率を上げる方法を検討したい。
担当	伊豆名 皓美

2. ネットワーク協議会事業

事業名	内容
(1) 第7回にいがた文化ネットワーク協議会	開催日時：令和6年3月4日(月)午後 会場：新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム 参加団体：7団体 議案：① 能登半島地震後の地震対策について ② 博物館におけるデジタルアーカイブについて
(2) 館報の発行	誌面名：「にいがた文化」第9号 発行：2024(令和6)年3月 仕様：16ページ、A4、カラー印刷 内容：表紙 大漢和辞典の「紙型」と「鉛版」(諸橋轍次記念館所蔵) P10~15 新潟県内の文化人顕彰施設・団体からのPR情報(ネットワーク館) 発行部数：5,000部(無料頒布) 頒布先：県内文化施設、図書館、学校等

3. 教育普及事業

(1) 担当学芸員による解説会(参加者総数：135名) ※2022(令和4)年度実績：53名

事業名	開催日	内容	参加人数
企画展示関連 解説会「金子孝信～絵に託した熱き想い～」	4/22(土)	担当：石垣 雅美	10名
企画展示関連 解説会「金子孝信～絵に託した熱き想い～」	5/27(土)	担当：石垣 雅美	22名
企画展示関連 解説会「金子孝信～絵に託した熱き想い～」	6/24(土)	担当：中島 榮一氏	40名

企画展示関連 解説会「一伝え続けた想 — 新井満回顧展」	8/26(土)	担当：石垣 雅美	3名
企画展示関連 解説会「一伝え続けた想 — 新井満回顧展」	9/23(土)	担当：石垣 雅美	8名
企画展示関連 解説会「一伝え続けた想 — 新井満回顧展」	10/28(土)	担当：伊豆名 皓美	8名
企画展示関連 解説会「諸橋轍次と『大漢 和辞典』ダイジェスト版」	12/23(土)	担当：伊豆名 皓美	6名
企画展示関連 解説会「諸橋轍次と『大漢 和辞典』ダイジェスト版」	1/27(土)	担当：伊豆名 皓美	25名
企画展示関連 解説会「諸橋轍次と『大漢 和辞典』ダイジェスト版」	2/24(土)	担当：伊豆名 皓美	13名

(2) 企画展示関連講演会（参加者総数：253名） ※2022（令和4）年度実績：159名

事業名	開催日	内容	参加者数
鼎談「金子孝信 ～絵に託した熱き想 い～」	5/13(土)	登壇者：金子隆弘氏（金子孝信の甥、 蒲原神社宮司）、中島榮一氏（本展監 修者、元新潟市潟東樋口記念美術館 館長）、大倉宏氏（美術評論家、砂丘 館館長） 進行：石垣雅美 会場：メディアシップ 2階 日報ホ ール	80名
トークイベント「千の風の誕生秘話」	9/29(金)	登壇者：新井紀子氏（新井満氏夫 人）、川上耕氏（新井満氏友人、弁護 士）佐藤和正氏（フリージャーナリ スト） 司会：竹石松次氏（BSN メディアホ ールディングス特別顧問） 会場：メディアシップ 2階 日報ホ ール	111名
講演会「音読み訓読み—漢字から生ま れた第3の文字」	2/25(日)	講師：高岡信也事務局長 会場：メディアシップ 6階 ナレッ ジルーム	62名

(3) 学校との連携事業及び学習対応（参加者総数：16名） ※2022（令和4）年度は3名

新潟市立鳥屋野中学校 2年生 2名による職場体験

期間：2023（令和5）年7月5日（水）～7月6日（木）

内容：博物館運営にかかる受付業務や広報業務などを体験

日本文理高校 1年生 5名によるフィールドワーク

期間：2023（令和5）年7月12日（水）

内容：地域課題解決に向けての探究学習後のフィールドワークとして見学及びヒアリング

新潟市立高志中等教育学校 1年生 4名によるヒアリング及びプレゼンテーション

期間：ヒアリング 2023（令和5）年7月18日（火）

プレゼンテーション 2024 (令和 6) 年 1 月 15 日 (月)

内容：生徒作成の質問に答える形で運営上の課題などについてヒアリング、
学校に戻り生徒たちで運営課題に対しての解決方法を議論、プレゼンテーション資料を
作成して、後日、職員へプレゼンテーションを行う

開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2 年生 3 名による臨地実習

期間：2022 (令和 4) 年 6 月 16 日 (金) ～ 8 月 4 日 (金)

内容：紹介文化人および館運営にかかる座学、増村朴斎の四コマ漫画作成および展示

新潟市立関屋中学校 2 年生 2 名による職場体験

期間：2023 (令和 5) 年 10 月 11 日 (水) ～ 10 月 12 日 (木)

内容：博物館運営にかかる受付業務や広報業務などを体験

※2023 年度に来館した小中学校数及び生徒数：17 校、176 名 (2022 年度：11 校、176 名)

(4) 館外での活動 (執筆、講座、講演会など)

■ 執筆活動

タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
新潟日報「展覧会へようこそ」 「前例のない壮大な仕事」	1 / 30 (火)	企画展示「諸橋轍次と『大漢和辞典』ダイジェスト版」を紹介	伊豆名 皓美

■ 講座、講演会など (参加者総数：37 名) ※2022 (令和 4) 年度は 212 名

事業名	開催日	内容	参加者数
いたくら文化研究会主催 講演会「教育者・増村朴斎と有恒学舎 について一記憶館企画展示『有恒学舎 創設 増村朴斎 教育への思い』出品資 料を中心に一」	10 / 8 (日)	担当：伊豆名皓美学芸員 会場：増村朴斎記念館	18 名
ゆいぽーと (新潟市芸術創造村・国際 青少年センター) 主催 二葉アーツスクール 2023 めだかの 学校第 2 回「藤田嗣治と新潟」	10 / 28 (土)	担当：石垣雅美学芸員 会場：ゆいぽーと 4 階多目的ス ペース 2	19 名

4. 調査及び研究・研修事業

■ 調査

新潟市歴史博物館との共同調査 (山田花作、阿部稲城ほか) 担当：伊豆名皓美学芸員 (2023 年 6 月 22 日～)

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

5. 収集・保存、資料貸出

■ 資料の寄贈受入

令和 5 年度は寄贈受け入れなし。

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧 (企画展示関連記事をのぞく)

掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
------	-----	-----	------

新潟日報	2/3(土)	広告「にいがた文化の記憶館」2023年度維持会員・パスポート会員の皆様 ご支援感謝致します	—
新潟日報	2/18(土)	書評「にいがたの一冊」書風の変遷 わかりやすく 小島正芳著『良寛の生涯と芸術—慈愛に満ちた心』	長谷川義明理事長

3. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (関連図)	○ 第1クールで展示したテーマ「はじめてましてにいがたの文化人」が好評で、第2クールでも継続した。 ○ 第3クールでは企画展示の併催としてミニ展示「辞典を編纂した新潟人」で紹介文化人と携わった辞典を展示した。	
	企画展示	○ 顕彰館がない文化人を紹介した企画展示を開催することができた。それにより、地元の自治体や顕彰団体、教育機関との連携を図ることができた。	
ネット ワーク 協議会	協 議 会	○ 第7回協議会開催にあたり、地震災害や博物館でのデジタル化などに対する意見や情報を交換することができた。	
	顕 彰 施 設 及 び 団 体 と の 連 携		■ 議題としてこれまで各館のPR動画作成、(記憶館での)出張展示や出張講座の実施といったことが挙げられている。R4年度に実施したアンケートにならぬ、それらについて各館・団体の声(要望・意見)を聞き、どういったことが可能かを探ることが必要だと考える。
	館 報	○ R5年度に開催した二つのイベントを紙上再録した。限られた字数での再録だが、企画展示で紹介した人物について、そしてイベント出演者の記録として残すことができた。	■ R4年度同様16ページ構成とした。紙価格の高騰などにより、寄稿の掲載ができなかった。媒体毎に広報計画を立てて、発信する内容を整理する必要があるだろう。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○ 過去の企画展示パネルの貸し出し依頼があり、それに伴い講師として登壇した。	
	副読本・ 偉人かるた	○ 令和5年10月から新潟日報社の情報誌「おとなプラス」(6年2月休刊)にカラー広告を掲載したことで、偉人かるたの注文が続いた。	■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。
調 査 ・ 研 究		○ 基本とする文化人データを調査、蓄積している。 ○ 企画展示の準備や照会依頼により、文化人の調査ができた。 ○ 他館との共同調査を始めて、他館学芸員との意見交換等を行っている。	
人 物 選 定 委 員 会		○ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。	
広 報		○ 不定期ではあるが、職員によるSNSでの発信を続けている。	■ チラシやポスター等の紙媒体での発信を見直して物流のコスト高への対応を検討したい。

【参考資料】 ◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	<p>〔4月〕長谷川義明理事長、新潟日報社・西川氏、新潟日報社・森澤眞理取締役、開志専門職大学アニメ・マンガ学部・西條海人氏、元新潟市立潟東樋口記念美術館・宮沢淳子氏、BSN 新潟放送・竹石松次顧問、リバティデザインスタジオ・和田竜哉氏・和田明子氏、會津八一記念館・湯淺健次郎学芸員、同・外山陽子氏、元新潟市潟東樋口記念美術館館長・中島榮一氏、新潟県文化課・中島香代子主任、同課・渡辺氏、諸橋轍次記念館・小野博史学芸員、横山秀樹氏</p> <p>〔5月〕新潟日報・佐藤俊次氏、長嶋圭哉氏、長谷川義明理事長、佐藤隆夫理事、吉田眞理理事、佐藤明評議員、會津八一記念館・水本事務長、新潟日報・中村裕氏、同・老田氏、同・清水記者、中島榮一氏、元新潟市立潟東樋口記念美術館・宮沢淳子氏、大倉宏氏、朝日新聞新潟総局・茂木克信記者、橋本博文評議員、小原清文評議員、敬和学園大学名誉教授・北嶋藤郷氏、永田幸男評議員</p> <p>〔6月〕元新潟市潟東樋口記念美術館館長・中島榮一氏、新潟日報社・森澤眞理取締役、開志専門職大学アニメ・マンガ学部・西條海人氏、新潟市潟東地区公民館長・阿部和夫氏、新潟日報社出版企画部・山田大史氏、ヤマト運輸株式会社グローバル事業戦略部美術品ロジスティクスチーム・下澤直裕氏、新潟日報社・高津氏、中島榮一氏、元新潟市立潟東樋口記念美術館・宮沢淳子氏、武藤斌氏、新潟県立万代島美術館・藤田館長、新潟県立近代美術館・長島学芸員、同館・飯島学芸員</p> <p>〔7月〕東北大学・越智郁乃准教授、中島榮一氏、新津美術館・奥村学芸員、美のよしゆき新潟市議会議員、新潟市歴史博物館・中村里那学芸員</p> <p>〔8月〕BSN メディアホールディングス特別顧問・竹石松次氏、(株)新潟放送総合ビジネス本部・上村啓メディアビジネス局長、同ビジネスプロデュース局・小野朋子事業部担当部長代理、新潟県社会福祉協議会会長・竹内希六氏、ジャーナリスト・江畑忠彦氏、武藤斌氏、長谷川義明理事長、(公財)日本教育公務員弘済会新潟支部・本間則昭支部長、BSN 新潟放送・島田好久社長</p> <p>〔9月〕新潟日報社報道部・監物和記者、新潟市文化政策課 2 名、會津八一記念館・水本事務長、同館・外山陽子氏、BSN メディアホールディングス特別顧問・竹石松次氏、安藤哲也評議員、新潟良寛会・柳本会長、元新潟市潟東樋口記念美術館館長・中島榮一氏、朝日新聞・茂木記者、橋本博文評議員、第四北越銀行本店営業部兼新潟支店法人営業第一課代理・渋谷洋貴氏、伊藤充評議員、長谷川義明理事長、弁護士・川上耕氏、フリージャーナリスト・佐藤和正氏、竹石松次氏</p> <p>〔10月〕BSN メディアホールディングス特別顧問・竹石松次氏、伊藤充評議員、新潟日報・増山氏、小田敏三会長、新潟稲門会・吉田六左衛門氏、新潟日報社・佐藤明社長、ゆいぽーと・小川弘幸ディレクター</p> <p>〔11月〕諸橋轍次記念館・嘉代隆一館長、新潟日報・石原亜矢子文化統括デスク、河治和香氏、會津八一記念館・喜嶋奈津代学芸員、同館・湯淺健次郎学芸員、同館・外山陽子氏</p> <p>〔12月〕會津八一記念館・水本事務長、吉田東伍記念博物館・渡辺元館長、伊藤充評議員、横山秀樹氏、武藤斌氏、新潟県文化課文化政策係・澁谷裕史係長、同課・中島香代子主査、おとプラライター・和田竜哉氏、同・和田明子氏、BSN メディアホールディングス・竹石松次特別顧問、長谷川義明代表理事、會津八一記念館・水本事務長、武藤斌氏</p> <p>〔1月〕新潟市生涯学習センター・小柴真一所長補佐、同・渡邊さおり主査、おとプラライター・和田竜哉氏、同・和田明子氏、新潟日報総務課・中村豊氏、同・老田氏、武藤斌氏、會津八一記念館・外山陽子氏、新潟市北区郷土博物館・神田直子学芸員、會津八一記念館・喜嶋奈津代学芸員、シネ・ウインド・井上支配人</p> <p>〔2月〕横山秀樹氏、吉田東伍記念博物館・渡辺元館長、元新潟市潟東樋口記念美術館館長・中島榮一氏、BSN メディアホールディングス特別顧問・竹石松次氏、新潟大学・角田勝久教授、上越教育大学・川村知行名誉教授、佐渡博物館・本間裕徳氏、長谷川義明理事長、上原木呂氏、新潟日報ふれあい事業部・今井部長代理</p>
ご遺族	<p>金子孝信ご遺族 5 名、大川博ご遺族 1 名、新井満ご遺族 1 名</p> <p style="text-align: right;">計 7 名</p>
団体観覧（一般）	<p>〔10月〕自然を楽しむ会 14 名</p> <p>〔11月〕亀田福寿大学 27 名</p> <p style="text-align: right;">計 2 団体（41 名）</p>

<p>団体観覧 (学校) ※引率者 を含む ※太字は 前年度以 前から継 続して見 学してい る学校</p>	<p>[4月] 新潟市立南浜中学校 2年生 5名、新潟市立曾野木中学校 2年生 19名、福島県湯川村立湯川中学校 2年生 4名 [5月] 新潟市立白根第一中学校 2年生 6名、新潟市立月潟中学校 2年生 4名、新潟市立藤見中学校 2年生 5名、新潟市立巻西中学校 2年生 6名、新潟市立木崎中学校 2年生 20名・引率 1名 [6月] 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名 (臨地実務実習生) [7月] 新潟市立鳥屋野中学校 2年生 2名 (職場体験)、開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名 (臨地実務実習生)、日本文理高校 5名、新潟市立高志中等教育学校 1年生 4名 [8月] 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名 (臨地実務実習生) [10月] 新潟市立新津第五中学校 2年生 5名、新潟市立潟東中学校 1年生 60名・引率 1名、新潟市立関屋中学校 2年生 2名 (職場体験)・引率 1名、新潟市立葛塚中学校 2年生 4名、新潟市立下山中学校 2年生 4名、胎内市立黒川中学校 2年生 4名 [1月] 長岡市立浦瀬小学校 5年生 17名・引率 2名</p> <p style="text-align: right;">計 19校・団体 (184名) ※ 2022 (令和 4) 年度=計 13校・団体 (201名)</p>
--	---

4. 財団運営業務

1. 会議の開催状況

(1) 理事会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (定時)	令和5年5月9日 新潟日報メディアシップ18階	[議事] 1. 2022(令和4)年度 事業報告案の件 2. 2022(令和4)年度 決算案の件(監査報告) 3. 任期満了に伴う評議員、監事選任の件
第2回 (定時)	令和6年3月25日 新潟日報メディアシップ14階	[議事] 1. 2024(令和6)年度 事業計画案 2. 2024(令和6)年度 予算案 [報告] 1. 2024(令和6)年度第1回(決算)決算役員会日程

(2) 評議員会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (定時)	令和5年5月24日 新潟日報メディアシップ6階 ナレッジルーム	[議事] 1. 2022(令和4)年度 事業報告案の件 2. 2022(令和4)年度 決算案の件(監査報告) 3. 任期満了に伴う評議員、監事選任の件
第2回 (定時)	令和6年3月25日 新潟日報メディアシップ14階	[議事] 1. 2024(令和6)年度 事業計画案 2. 2024(令和6)年度 予算案 [報告] 1. 2024(令和6)年度第1回(決算)決算役員会日程

2. 組織

(1) 役員等の人数(令和6年3月31日現在)

評議員	14名	令和3年3月23日から現体制
理事	10名	理事内訳(代表理事2名、館長・理事1名、常務理事・事務局長1名、理事6名)
監事	1名	

(2) 職員数(令和6年3月31日現在)

館長	事務局長	職員	計
1名	1名	2名	4名

※ 顧問1名、学芸顧問1名

(3) 組織図(令和6年3月31日現在)

